

## 広がった輪

函館校 地域協働専攻 1年 坂井玲衣

私はこの度、中国・瀋陽師範大学に留学しました。午前中に開講された中国語講座では、日本人だけではなく世界各国様々な国籍の学生と共に中国語を学んだと同時に、中国語を通して先生やクラスメイトとの交流を深めることができました。また、太極拳や茶道の体験、中国民間楽器鑑賞に携わったことによって、中国の歴史や文化をより深く学ぶことができました。2週間という短い期間でしたが、学校生活やたくさんの出会いなど中国での経験すべてが、私にとって、とても充実したかけがえのない日々となりました。

私が中国に滞在している間、とても重要なことに気づきました。それは、たった一言ですが「謝謝（ありがとう）」という言葉の大切さです。中国語は、少しの声調の違いで言葉の意味が変わるという特徴があるため、声を張ってはっきり話さなければ自分の意思を相手に伝えることができないということは知っていましたが、実際、最初は中国人と会話をしてもし思い通りにいかず、自分の意思を相手に伝えることができませんでした。言葉の壁があっても、淡々とそして容赦なく話しかけてくる中国人に対して正直、無愛想で怖いという印象を持ちました。しかし、そのような状況から解決に導いてくれたのは「謝謝（ありがとう）」という言葉でした。私は、中国人と交流するときに、たとえ自分の意思が相手に伝わらなかったとしても笑顔で接することを常に心がけ、お店で食事をするときや買い物をしてお釣りをもらうときなど、相手に何かをしてもらったことがどんなに小さなことであっても、「ありがとう」という感謝の気持ちを言葉にして積極的に伝えました。そのようにしたことによって、中国人も笑顔になり、少しずつコミュニケーションをとることができ、心の距離が縮まっていきました。また、伝わらないことがあっても私が言いたいことを理解しようと耳を傾けてくれました。最初に感じた中国人に対する印象は、私が持っていた偏見であり、実際は無愛想でも怖くもなく、むしろ優しい人たちばかりだということがわかりました。

日本では、誰かに何かをしてもらったときに「ありがとう」を言うことは当たり前なことかもしれません。しかし、中国人の友人によると、中国では「ありがとう」を使うことは滅多になく、とくに親しい仲であればあるほど使わないため目を見て「ありがとう」と言われると、気分も良く嬉しいとのことでした。

「ありがとう」という言葉は、国境を越えて人と人の心を繋ぐこと、そして勇気を持って笑顔で自分の意思を伝えようとするれば、言葉の壁があってもわかりあうことができるということは、2週間の中での大きな発見であり、中国に留学したからこそ気づくことができたのだと思います。中国で学んだことを糧に、日本でも感謝の気持ちを言葉にして周りの人に伝え、友の輪、心の輪を広げていきたいです。

最後に、日本とは異なる環境や文化を肌で感じ、中国人の心の優しさや温かさを直に感

じることができるこの瀋陽師範大学短期プログラムが、これからもずっと続いていくことを心から願っています。



共に授業を受けたクラスメイトたち



日本語学科の学生と交流



大好きな店員とパン



終了式